

一つしかない尊い生命を捧げた若者を

決して犬死させてはならん

甲飛六期 松井 博司

母 松井 繫子（長野県）

去年の暮れから風邪をひいて、寝ておりましたが、お陰様にてようやく快方に向かいました。

かねて世田谷にお住まいで、倅博司と同期の高橋重男様の御力添え、また大原直正様方々のご親切な御尽力で、このたび勲章並びに、高松宮妃殿下の御歌と金のおさかずき等をちようだい致し感激の余り感涙にむせびました。これを博司の霊前に供えて報告致しました。草葉のかげできっと自分は犬死ではなかったと喜んでいることをごさいます。かけがいのない、一つしかない尊い生命を捧げた若者を決して犬死させてはならんと声を大にしてさげびたくなります。

私は言葉にも筆にも、この胸の中を語りつくせぬおろかな老母でございますが、皆様方の暖かい御心を心と致しまして、何十年何百年の後迄も永久に伝えていただきたい気持ちでいっぱい御座います。

・・・（以下略）・・・